

頑はない子供がとんぼの頭をむしつたり、いなこの羽や脚をとつたり、又すいんでは犬をいぢめ魚鳥を殺すなどいふわるさは其初めに悪い心ではありますまい、併し之がくせになると終には人に對してもむごい事をして何とも思はぬばかりか却つて人の苦しむゆゑをおもしろく思ふやうなねぢれたものとなつて恐ろしい人殺の罪をさへ犯す様にもなるのであります、云云、

耳漏(即ちみゝたれ)に付

きての注意及豫防法

故飯島八千溪寄

この一篇は長野小學校で、家庭に通知する爲に、いろくの事項を定めて印刷に附して居る、其中の一項でありまして、前年亡くなられた、飯島君から寄贈せられて居たものであります。

○耳漏 即ち。みみだれが もとに成つて 膿や

膿に なるものわ 世間に すいぶん 澤山あり

ます 殊に 耳漏から 脳膜炎を ひき起して

大切な命を失う者も 有ります 〓 たとい それ

ほど迄に至らなくとも 耳が遠く成つて 生涯

不自由を して居るものわ よほど 多いので

あります 〓 況んや 耳漏の うみから 他人に

傳染する事も 有るので ありますから 〓 耳漏

に かかつたら 早く お醫者様に 見て いた

だいて すつかり なふる迄 療治をしなければ

いけませんぬ

○「耳漏わ からだの毒が 耳から出るのだから

之を なおすと 却て からだの害に成る」と云

ふ俗説も、昔ね 有りましたが 之の實に、まぢ

がツた 取るに足らぬ説であります

○鼻の病や 咽頭の病が もとに成つて 耳漏に

成る事が 多くありますから 鼻や 咽頭の 病

氣に かからぬ様に 注意することが 必要で

あります

○鼻を かむ時に 一時に兩方を かむのわ 耳
 の爲に、危険でありますから、一時に兩方を か
 まないで 右の方を かむ時わ 左を おさえ
 左の方を かむ時わ 右を おさえ かつた
 づつ かむ様に しないでぬ いけません
 ○口を ふさいで 鼻で いきを する事わ 耳
 の爲にも 咽喉の爲にも 猶又 肺の爲にも 誠
 に 大切な事だ あります 夜ねむる時に 口
 を あいて いびきを かく子供や 鼻が ふだ
 ん つまつて居て 口を ふさいでわ いきが出
 來ない様な子供わ お医者様にかかつて 療治を
 する方が 宜しゆーございます
 ○口の中を 清潔にする事も 亦 耳の爲に 甚
 だ大切な事だ あります ですから 子供が生れ
 て まだ小さい内わ 親の手で 毎日 口の中を

よく そーち してやる事が 必要で ありま
 す 少くも 大きく成って 自分ひとりで 出来る
 様に 成りましたら 三度の食事の後にわ 其つ
 と必ず 口及び のどを すゝがせ 猶 朝でも
 晩でも 一日に一度わ はみがき又わ鹽を つけ
 て 齒を そーち させる事が 肝心で ありま
 す
 ○耳の中に 耳あか が ひどく たまつたり
 或わ 虫や豆や小石などが 耳に は入つたり
 或わ 耳の中が 痛んだり 或わ 耳が遠く成つ
 て どこか ぼんやり して居る様で ありまし
 たら お医者様に 見て いたいく方が 宜しゆ
 ー ございます
 ○湯に は入る時に 耳の中え 湯を入れない様
 に 注意しなくてわいけません 赤子に 湯

をつかわせる時にわ かくべつ 氣をつけて願
います 耳の穴え 綿を ほぞに あてて 湯に
入れるなどわ よい注意と申います 夏 川え
あそびに行く子供わ 耳に水を入れない様に 注
意する事が 尤も必要である

○お醫者様の 濁しづに よらないで しろーと
りよーぢに 鼻の穴の中を洗つたり 耳の穴の中
を洗つたり する事わ けんのんな事です かん
ざしで、耳を ほるのも よほど 氣をつけない
と 危険です

○子供が たび／＼咽喉カタルと云う病(のどが
赤く成つたり又わ はれたり そして のどが
いたむ病)に かかつて それが ながびいて
なからない場合 或わ アーと 口を大きく
あけて見ると 口の奥の方で のどぼとけの そ

ばで 舌の根の兩わきに有る まるいもの 即ち
扁桃腺と云ふものが はれて大きく成つて なん
ぎを する場合にわ 手かくれに ならない様に
早く お醫者様に見ていただくが 宜しゆーご
ざいます

○以上の注意わ からだか 健康の時にち もち
ろん 守らなければならぬ事ですが とりわけ
鼻や のどに 病の有る時 或わ インフルエン
ザ ハシカ デフテリア チョーチフスなどの病
に かかった時 或わ おたねもや 顔に丹毒の
出来た時などにわ かくべつ 注意する事が 必
要であります 殊に 鼻の かみ方 口の中の
そーち等を 怠つてわ いけませんぬ
○小さい子供 又わ 重い病氣の爲に 自分一人
で できない者にわお醫者様の さしづを受けて

看病人が よく注意を してやらなくてわ いけ
ませぬ――ながく 床について居る病人わ 時々
ねがえりをさせる事が 必要です そして それ
が 耳の養生にも 成るのであります

○耳や のどの病に依つてわ 或わ お医者様が
扁桃腺の はれて大きく成つたのを 切つて下さ
る事もあり――或わ 鼓膜穿孔術と云つて 耳の
極奥の方が わるくて うみを持つて かまわず
置いてもしせんと 鼓膜に 大きな穴が 陥いて
中の うみが 出て来る様な病にわ 其の前に
お医者様が 鼓膜に 小さく穴をあけて 早くな
おして下さる事も 有るそいで ございます

木綿漂白新法

平岩 學 洋

皆様に今度は木綿漂白法を御紹介至しませう、先
づ銅鍋或は銅釜に適量の温湯をこしらへて、生木
綿百匁目につき炭酸曹達八匁を入れまして、よく
とかし、豫め水で濕してかさました木綿を其の中
に投じまして煮沸すること一時間位、其の間度々
棒を以て釜の中の木綿をかきまわし、其の儘浸し
かくこと一時間位にして引きあげ、絞りて清水で
洗ひ、次に清水を程よくこしらへてコロールカル
キ十匁を別の器の中で塊を崩さかきまわし、水を
加へてとがした者を其の中に注ぎかけてよくかき
まわした后で、前の木綿を浸し、暫時にして絞り
再び浸しかくこと三四時間位にしまして漂白せら
るゝを度として引揚げて絞り五六回清水で洗ひ次
に清水五升の割合に硫酸五匁注ぎよくかきまわし
て其の中に漂白木綿を浸しますこと三四十分間に